

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	果樹・野菜等振興事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	農業課		包含する細々目	1	6	1	4	18	1	322,680
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	地域経済活性化プログラム2007、地域農業マスタープラン						
		事業期間	5	年度～	年度	関連計画条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	果実・野菜の生産農家	販売農家数(統計上この区分しがないデータなし)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了とする	
			2676	2600		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	生産額を上げてもらう	野菜生産額(千円)	18目標	最終目標		
	農作業を効率化してもらう		18実績	153	19目標	154
			23目標	182	23実績	
			18目標		最終目標	
			18実績	246	19目標	246
		23目標	275	23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<ul style="list-style-type: none"> 果実・野菜の振興品目の生産に必要な設備や、苗木の更新・導入に要する経費の一部を補助する。 有利販売の可能性がある新品目に取り組みとする農家への支援策を講ずる。 養液土耕栽培:作物の生育に合わせ、必要ときに必要な量をかん水、施肥する栽培方法 コンフューザー:昆虫の雌成虫が出す性フェロモンの臭いを化学的につくり充てんした資材。交尾をかく乱させることにより害虫被害を減らす効果があり、一定程度の農薬削減が可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 果樹振興対策 市田柿生産施設整備(冷凍機・除湿器)補助 市1/4 果樹更新苗木苗木導入(シナノイト・ゴールド・ブルーベリー)市1/4 コンフューザー(交信かく乱材)資材補助 補助 市1/4 農薬飛散防止施設整備資材補助 市1/4 野菜振興対策 養液土耕栽培施設導入(キュウリ・アスパラ)補助 市1/4 山椒苗木導入補助 市1/4 	<ul style="list-style-type: none"> 果樹野菜事業導入農家数(新技術等)(戸) 	665
		<ul style="list-style-type: none"> 果樹振興対策 選果施設整備事業(センサー更新、プールライン設置) 果樹更新苗木導入(はつつがる、シナノイト・ゴールド)市1/4 コンフューザー導入資材補助(交信かく乱材)桃・梨 市1/4 野菜振興対策 アスパラ選別機導入事業 市1/4 苗木導入(アスパラ) 市1/4 雨よけ施設整備事業 市1/4 	<ul style="list-style-type: none"> 果樹野菜事業導入農家数(新技術等)(戸) 	650

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		320,000
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	4,396	2,680
	事業費計(A)	4,396	322,680
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,300	19年度 320
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	4,649	1,144
	トータルコストA+B	9,045	323,824

特定財源内訳や補足事項	強い農業づくり交付金(国)
-------------	---------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額を高める活動をする	既存農業者の産出額(農業):億円	現状値	119.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	139.1
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
果樹は台木の老朽化による計画的品種転換と産地力向上のための品質改善が必要となった。 野菜は担い手の高齢化に応じた作業省力化や収益確保のためにロス率を落とした低コスト栽培が必要となった。	果樹については、景気低迷による消費量の減少や他産地との競合等により価格低迷が続き、地域に適した品種導入による特徴のある産地づくりが一層必要となってきた。 主力野菜のアスパラガスは、導入後10数年経過して改植時期を迎えているほ場が増加している。	(施設整備農家の声) 養液土耕栽培システムを導入し、施肥とかん水を自動管理することで施肥量が削減でき作業量も減った。 新たな振興品目には、販路が確保された計画的な振興が必要。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		品質の向上や生産性の向上が図られ、農業産出額や収量の増加に結びつく。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		販路拡大を補完するためにも、生産面での品種転換や省力化を継続する必要があるため。	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		生産団体や生産者と協力し地域一帯となった取組が必要のため。	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 ・基幹品目であるアスパラに品目を絞り、高品質生産に向け重点的支援を行う。 ・りんごは中性種に重点をおき、早生種から晩生種までのシリーズ化を図る。 ・市田柿については、栽培・加工・流通販売体制を強化するため新たにプロジェクトを立ち上げ取組を行う。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	・梨(幸水、豊水)の更新 ・中山間地、遊休地で栽培可能な省力作物の振興

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	